

週間市場レポート (2020年10月19日~10月23日)

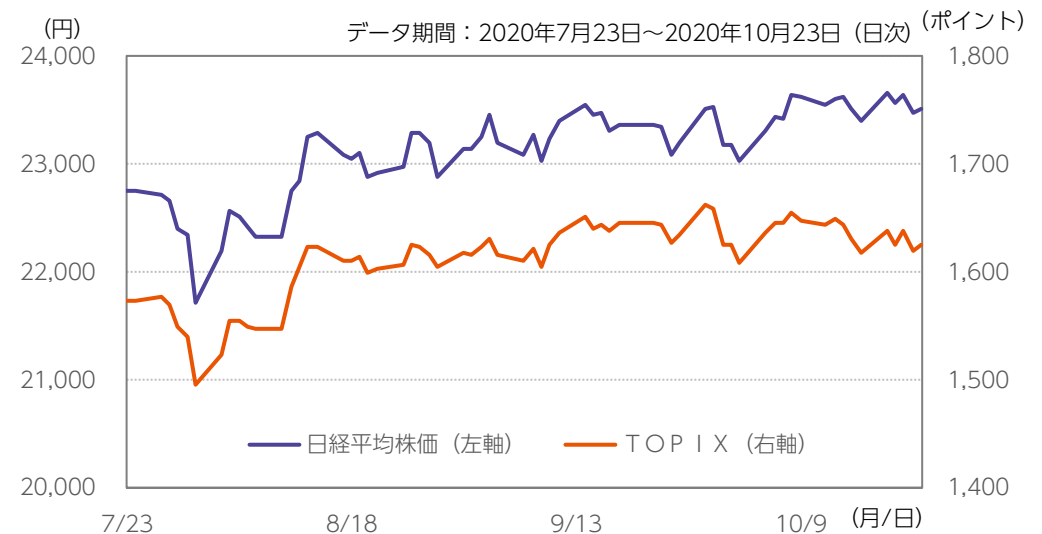
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2020/10/16	先週末 2020/10/23	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		23,410.63	23,516.59	0.45 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,617.69	1,625.32	0.47 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		28,606.31	28,335.57	▲ 0.95 ↘
S & P 500種指数		3,483.81	3,465.39	▲ 0.53 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,245.47	3,198.86	▲ 1.44 ↘
S & P / ASX 300指数		6,159.74	6,146.34	▲ 0.22 ↘
上海総合指数		3,336.36	3,278.00	▲ 1.75 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)※		905.19	910.91	0.63 ↗
東証REIT指数		1,689.58	1,687.27	▲ 0.14 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		678.85	676.05	▲ 0.41 ↘
ASX 300 REIT 指数		1,340.30	1,330.20	▲ 0.75 ↘
グローバルREIT (除く日本)※		159.28	159.68	0.25 ↗
日本10年国債 (%)		0.023	0.041	0.018 ↗
米国10年国債 (%)		0.746	0.843	0.097 ↗
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.622	▲ 0.574	0.048 ↗
英国10年国債 (%)		0.182	0.280	0.098 ↗
ドル/円		105.40	104.71	▲ 0.65 ↘
ユーロ/円		123.48	124.19	0.57 ↗
英ポンド/円		136.13	136.56	0.32 ↗
豪ドル/円		74.63	74.76	0.18 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,399.76	2,360.23	▲ 1.65 ↘
WTI原油先物 (ドル)		40.88	39.85	▲ 2.52 ↘
CRB指数		151.48	150.68	▲ 0.52 ↘
アレリアンMLP指数		666.42	692.99	3.99 ↗

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で小幅に上昇となりました。週初は、良好な米国の小売売上高の結果が好感され、前週末に米国株式が4営業日ぶりに反発した流れを受け上昇しました。その後は、米国の追加経済対策の進展期待や、新型コロナウイルスワクチンの開発中断をめぐり、週末まで一進一退の展開となりました。週間では、前週末比で小幅に上昇となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

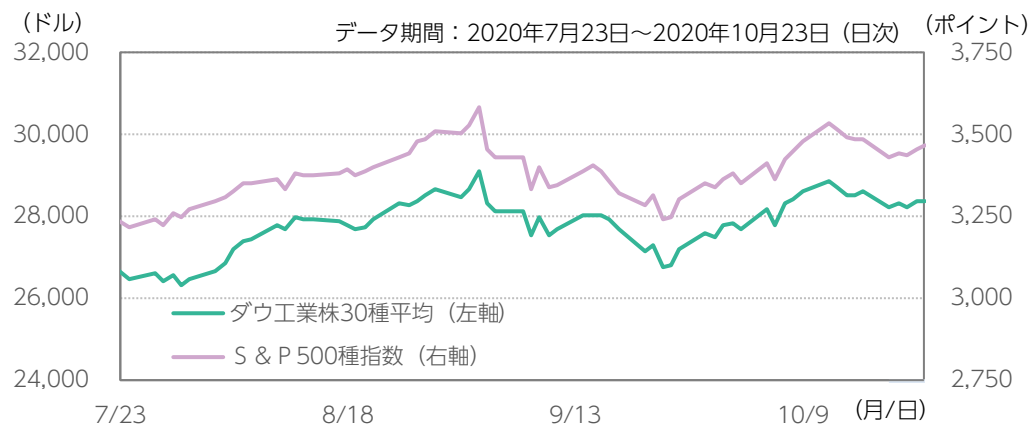
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇となりました。
週前半に欧州での新型コロナウイルス感染再拡大を受けた投資家のリスク回避姿勢による買いが進行する場面もあったものの（利回りは低下）、週央以降は、米国の追加経済対策の進展期待を受けた売りが優勢となりました（利回りは上昇）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

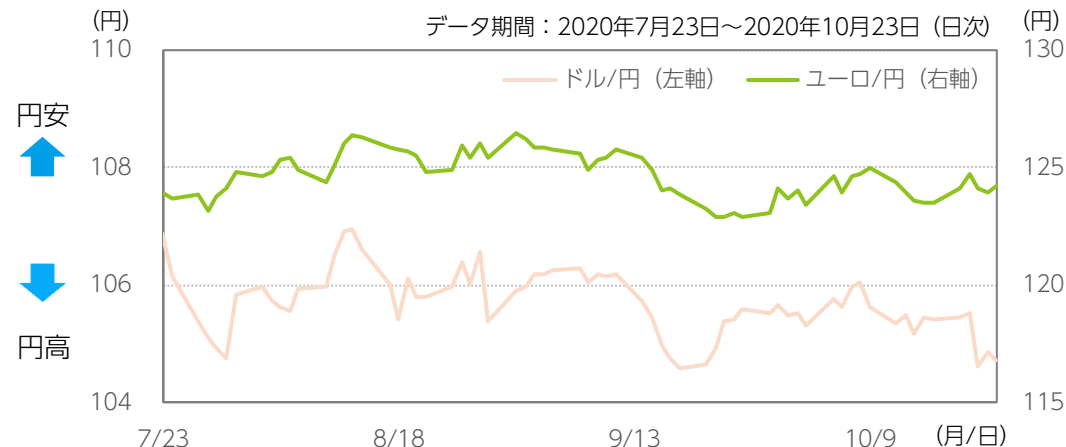
米国株式市場（NYダウ）は前週末比で下落となりました。
追加経済対策の合意期限をめぐり、与野党の隔たりが依然大きいとの見方が広がり、週初は下落しました。その後も、大統領候補者討論会を控え様子見ムードの中、経済対策をめぐる情勢を見極めようと、一進一退の展開となり、週末は半導体大手の低調な決算内容を受け下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。
欧州における新型コロナウイルス感染再拡大により、世界景気の回復が遅れるとの見方が広がり、投資家のリスク回避目的の円買いが優勢となりました。ユーロは、欧州連合（EU）が初めて発行するソーシャルボンドに旺盛な需要が確認され、ユーロ高が進行しました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、米国の追加経済対策の与野党間の協議をめぐり、日米両市場ともに週を通じて一進一退の展開となりました。

米国大統領候補者の最終討論会は波乱なく終了し、討論会終了後の先週末の株式市場の反応は限定的となりました。市場では、引き続き民主党候補のバイデン氏が優勢との見方が大勢を占めています。しかし、トランプ米大統領は4年前に劣勢を覆し勝利しており、一部では大逆転の可能性があるとの声もあり、大統領選の行方が注目されます。

今週の株式市場は、来週11月3日の米国大統領選を控え、様子見ムードから方向感の出にくい展開を見込みます。

一方、与野党で協議が続く追加経済対策の早期合意に向け、進展が見られた場合や、米国の主要IT（情報技術）企業の良い決算が確認できれば、株式市場は上昇する可能性もありそうです。



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120 - 762 - 506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>